

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず，知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ，実践力・行動力の育成につながっている事例
-------	---

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

佐賀県小城市

学校名

小城市立晴田小学校

学校のURL

<http://www2.saga-ed.jp/school/edq10903/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各2学級【特別支援学級】1学級【合計】13学級

児童生徒数

【全児童数】368人（平成23年4月6日現在）
（内訳：1年...58人，2年...55人，3年...66人，4年...62人，5年...54人，6年...73人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

自他を大切にし，よりよく生きる心豊かな子どもの育成～「学び愛」，「思い愛」，「認め愛」～
めざす児童の姿「自他を大切にする子」「思いやりのある子」「進んで学ぶ子」

【人権教育目標】

（基本目標）一人ひとりが愛される学校に

（重点目標）「自他の人権を尊重する態度の育成」

「ともに学び合う関係づくり（人権が尊重される学習活動づくり）」

「互いのよさや可能性を認め合う仲間づくり（人権が尊重される人間関係づくり）」

「安心して学び合える学習環境整備（人権が尊重される環境づくり）」

人権教育にかかる取組の全体概要

人権尊重の視点に立った教育活動の展開

人権教育を基盤に据えた目標を具現化するために，「人権が尊重される環境づくり」「人権が尊重される人間関係づくり」「人権が尊重される学習活動づくり」をめざす自分づくり，心づくり，学びづくりの各チームが，めざす姿，つきたい力に向かって相互に関連させながら，具体的に取組んでいく。

人権学習の創造

児童を中心に据え，人権教育のテーマを学習の視点として，出会いや体験を通し，探究的な学習，共同的な活動を展開させる人権学習を創造する。学校行事と各教科，道徳，学級活動，総合的な学習の時間を人権のテーマで相互に，横断的に関連させていく計画を策定する。特に人権教室，人権集会等の行事と道徳，学

級活動，総合的な学習の時間の価値内容を関連させ，児童の効果的な学びをめざす。各教科においては，単元や題材で人権に関する知的理解を図ったり，算数科の他者との関わりのなかで学力の保障をめざす学習過程に取り組んだり，国語科で発達の段階に応じた言語活動を重点的に取り組んだりする。

人権教育を基盤とした校内組織(学びづくり，心づくり，自分づくり)の構築

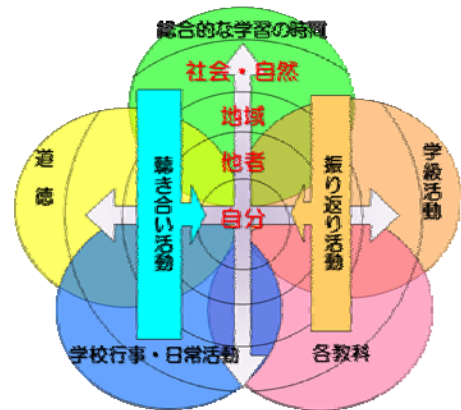
児童間の望ましい人間関係を形成し，人権尊重の意識と実践力を養う教育活動を展開するため，各チームで行事や取組について練り合い，共有化する。主に学びづくりチームは児童の学力の保障，心づくりチームは豊かな人間関係，自分づくりチームは自己肯定感を高めることをめざし，取組を具体化していくことで，児童が日常的に人権に触れる環境をつくっていく。

3. 特色ある実践事例の内容

かがやき学習(人権学習)の系統化，明確化をめざしての取組

(取組のねらい，目的)

6年間を見通した人権教育の視点にたった価値内容で学習を関連化させた人権学習において，人権教育を通して育てたい資質・能力(知識的側面，価値的・態度的側面，技能的側面)を単元の中で明確にし，具体的な手立てを考える。



(取組の内容)

1 6年間を見通した人権学習の系統化...レベル

自分を中心に 学年に応じて 同心円的に学習を広げていくレベルを設定する。授業においては，学習のねらいに応じて「学び愛」・「認め愛」・「思い愛」の視点で聴き合ったり，学びの様子や友だちとの関わりについて振り返ったりして効果的な学習をめざす。

2 普遍的，個別の人権課題に関わる授業創造...テーマ，価値内容

テーマ学習 1 一学期 仲間づくり(自分と仲間)

児童の自己肯定感を高めることをめざし，実態・発達の段階に応じて人間関係づくりにつなげる

テーマ学習 二・三学期 各学年テーマ ~ 協力的，参加的，体験的学習 ~

- ・ 総合的な学習の時間を柱として，普遍的な人権課題に関わる授業を創造する。
- ・ テーマに迫ることができるように道徳や学級活動を関連させる。行事や日常活動を考慮する。
- ・ 個別の人権課題に関わる授業は，道徳で位置付け，学習効果を高める。
- ・ 人権教育を通して育てたい資質・能力を単元の中で明確にし，目標，評価の観点と連動させ，手立てを考える。

3 手立ての明確化...方法(学習過程，指導方法，学習形態など)

(1) 人権学習におけるPDCAサイクルを意識した学習過程(単元・授業レベル)

Plan(計画，目標設定) Do(行動，実践) Check(状況の把握，評価) Action(改善 調整)

(2) 聴き合い活動，振り返り活動を位置付け

聴き合い活動(あいあいタイム)の視点



自分の意見を相手に伝えたり、友だちの意見に真剣に耳を傾けて聴いたりすることで、コミュニケーションの力を伸ばし、よりよい人間関係を築いていく。教えあったり、多様な意見を聴き合ったりしながら、助け合って学習することで、学力の保障にもつなげていく。

聴き合う視点を明確にし、学習過程での位置づけや学習形態を工夫することで、目標、めあてや指導と評価を効果的に一体化していく手立てとなると考え活動を設定している。

視点	道徳,学級活動,総合的な学習の時間	各教科
思い愛	相手の立場になって聴く	みんながわかる
認め愛	相手の考えが分かる	いろいろな考えを知る
学び愛	自分の考えを創る	よりよい考えを学ぶ

振り返り活動

「友だちが教えてくれたこと」「多様な考えにふれたこと」等、友だちと関わることよきに気付かせる。「内容理解」と、「友だちとの関わり」という2視点で、振り返りを行う。

(3) 人権が尊重される授業づくりの視点

(人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]より)

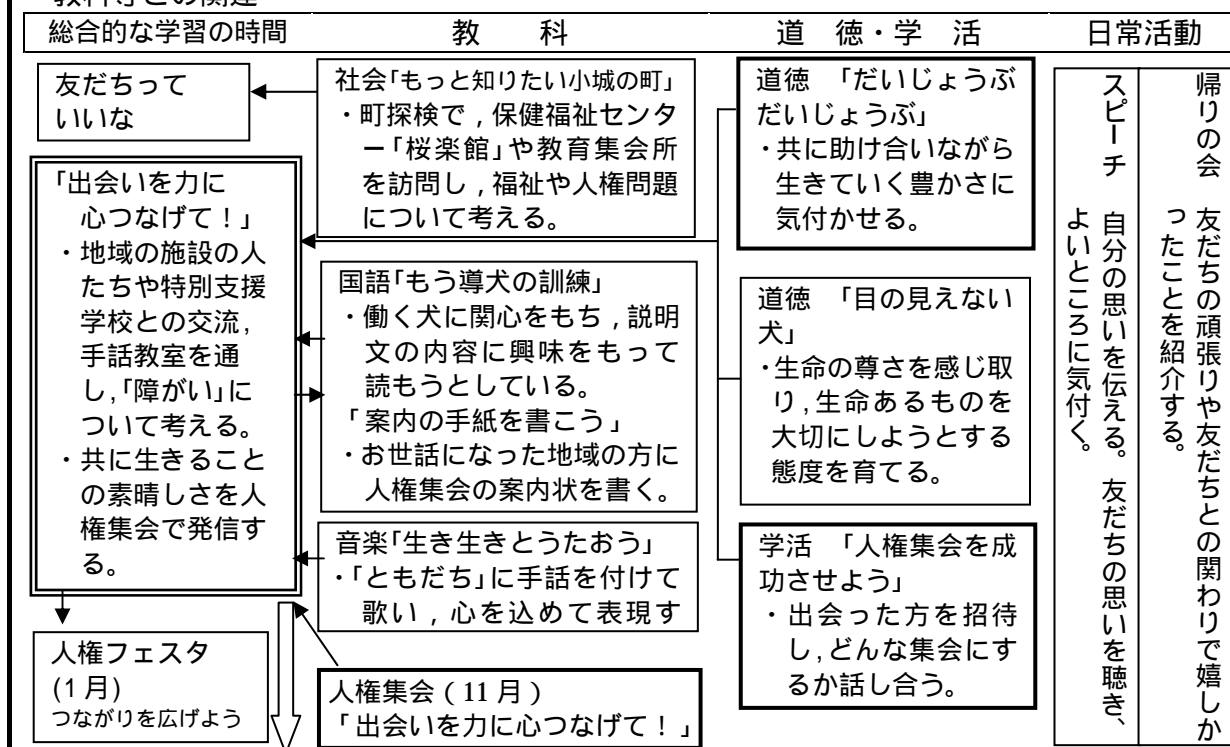
4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組実績) 第3学年 人権学習 テーマ 「共生」

本単元での人権教育を通じて培われるべき資質・能力

【知識的側面】	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの周りには、いろいろな人が「共に生きている」ことを知る。 疑似体験を通して、「障がい」のある人の苦労や思いを知る。
【価値的・態度的側面】	<ul style="list-style-type: none"> 違いを豊かさとしてとらえる感性を培い、共に生きることの素晴らしさに気付く。 人との関わり合いを通して、友だちとの思いを共有し、人の気持ちを考える。
【技能的側面】	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力して、問題を解決しながら、自分たちの思いや願いを発信する。 人の痛みや感情を共感する豊かな感性をもち、人の違いを認め受容している。

教科等との関連



総合的な学習の時間での実践

- 1 単元名 「出会いを力に 心つなげて！～ちがいをゆたかさに～」
- 2 年間計画における本単元の位置づけ

出会いを 力にしよう	友だちっていいな(15 時間)
	出会いを力に心つなげて～ちがいをゆたかさに～(35 時間)
	タイムマシンに乗って昔体験！未来予想図(20 時間)

3 人権教育に関わるつきたい力と手だて

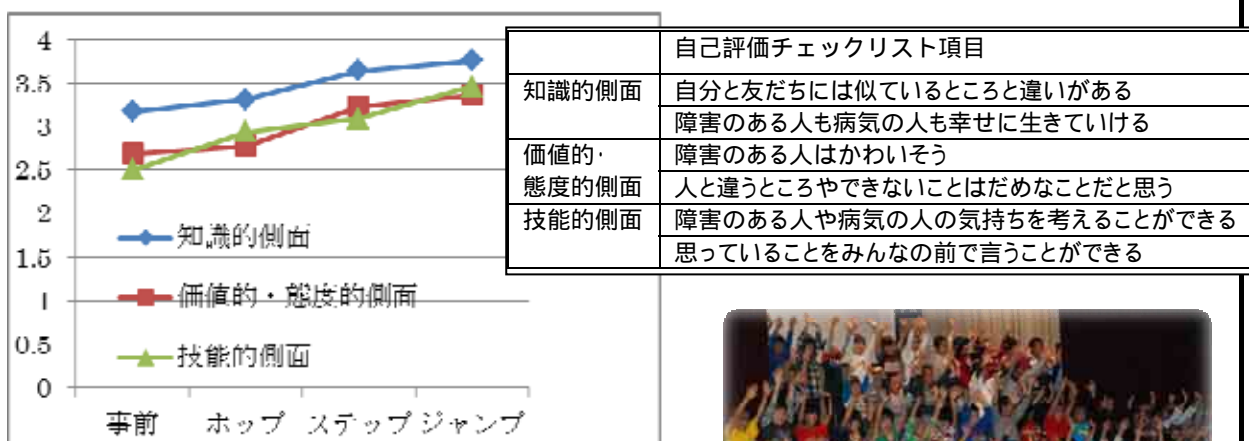
人とのつながりの豊かさを体験させ、自己肯定感を育み、互いを尊重し合う人間関係づくりを意識させる。そのために、「あいあいタイム」と「振り返り活動」をどの学習活動にも取り入れることで、自己・他者理解を深め、コミュニケーション力をつけさせ、協同的に学習を進めていくようにさせる。

4 単元の計画（全35時間）

過程	学習計画	指導上の留意点及び評価	培われる 資質・能力
P 計画・ 目標 設定 ホ ッ プ	いろいろな人にふれあってみたいな Hさんの歌と先生の話 ～手と手をつないで～ ・聴覚難聴の同級生の話。 ・「障がい」について、知っていることを話し合う。 「だいじょうぶ だいじょうぶ」の絵本との出会い あいあいタイム 課題の紹介・見直し 振り返り活動 課題の決定	・「障がい」のあるなしに関わらず誰もがかけがえのない存在であることを知る。 ・自分の周りには、ちがいをもった様々な人たちがいることを知り、交流してみたいという意欲や関心をもたせる。 友だちとの伝え合いを通して、課題を設定している。 【課題設定能力】	事前 自己評価シート (知) 私たちの周りには、いろいろな人が「共に生きている」ことを知る。 ホップ段階 自己評価シート
D 行動・ 実践 ス テ ッ プ	出会いを力にしよう 金立特別支援学校との交流 ・金立特別支援学校の先生から、特別支援学校の友だちについて話を聞き、楽しい交流会になるように工夫する。 小城町の探検 ・小城町にある福祉の施設や教育集会所、授産施設を見学し、インタビューを行う。 みょうが塾施設見学と作業体験 ・施設を調べ、インタビューを行う。 手話教室 ・手話を習い親しむ。 あいあいタイム 中間発表 課題の見直し・新しい課題の紹介 振り返り活動 新たな課題の発見	・身近に住んでいる人との出会いや交流を大切に、人の気持ちを考えさせたり想像させたりする。 ・様々な出会いを通して地域の人たちを知り「障がい」について考えるきっかけとする。楽しかった交流について思いを伝え合わせる。 ・「障がい」をもちつつもその人らしく夢をもって生きていく大切さを感じ取らせる。 ・手話が大切な言語であることを知らせる。	(態) 違いを豊かさとしてとらえる感性を培い、共に生きることのすばらしさに気付く。

<p>C</p> <p>状況把握・評価</p>	<p>「しょうがい」ってなんだろう？</p> <p>手話教室 2 回目 難聴の医学部 2 年生の講話を聞く。 自分を強くするもの家族の絆を深めるもの</p> <p>大和特別支援学校との交流</p> <p>喜んでくれるプレゼントを作って渡そう</p> <p>金立特別支援学校との交流</p> <p>一緒に楽しめる遊びを考えよう</p> <p>・特別支援学校の先生にインタビューをする。</p> <p>あいあいタイム 課題の見直し・新しい課題の発見 振り返り活動 自己評価・相互評価</p> <p>ちがうことってすばらしい</p> <p>疑似体験をする。 ・補聴器体験,アイマスク体験,車いす体験 絵本「だいじょうぶ だいじょうぶ」を読む。 ・「障がい」があっても人との関係によって,楽しく幸せに生きていくことができることを知る。 ・人は,それぞれ違っていることを知り,違うことをどう感じるか考える。 ・よいところも弱いところも含めて,自分らしさとして受け入れ,語り合う。</p>	<p>・簡単な手話表現ができるようになることで,手話に対する興味や関心を深めさせる。 ・その人らしく夢をもって生きていく大切さに気付かせる。 ・交流の友だちの気持ちを考えたり想像したりしながら,楽しく遊べるような工夫をさせる。 ・特別支援学校の友だちについて理解を深めさせる。</p> <p>人との出会いを通して,自分の生活を重ねながら自らの生き方を考え解決しようとしている。 【問題解決能力】</p> <p>・「障がい」のある人の思いに気が付き,みんなにとって暮らしやすく,安心できる社会について考えさせる。</p> <p>・人の生き方は,多様であることを知り,人の弱さやちがいを認め合っていて生きていこうとすることの豊かさを感じ取らせる。 ・「ちがいを豊かに生きる」ことについて自分の考えをもち,友だちとの思いを共有させる。</p>	<p>(技)人の痛みや感情を共感する豊かな感性をもち,人の違いを認め受容している。</p> <p>(知)疑似体験を通して,「障がい」のある人の苦勞や思いを知る。 ステップ段階 自己評価シート (態)人や友だちとの関わり合いを通して,友だちとの思いを共有し,気持ちを考える。</p>
<p>A</p> <p>改善・調整</p> <p>ジャンプ</p>	<p>人権集会で発表しよう</p> <p>人権集会の計画を立てよう ・相手を意識し,学んできたことを表現できる会になるように,発表の内容を考える。 ・グループ学習をして計画を立てる。(役割分担,誰を招待するか,準備するもの) ・人権集会のリハーサルをする。</p> <p>あいあいタイム リハーサル・見直し 取組紹介・見直し</p> <p>人権集会 出会いを力に心つなげて! ～ちがいをゆたかさに～</p> <p>振り返り活動 実践する態度 自己評価・相互評価</p>	<p>・出会いを通して学んだことや「共に生きる」ために大切なことを人権集会で発表することができるように助言する。 地域や特別支援学校,手話教室などで学んだことをまとめ,新聞や絵,写真を使って表している。 【表現力】 ・全ての人が自分らしく生きることを大切にし,「障がい」についての考えを深める。かけがえのない存在として生きていることを感じ取らせる。 感じたことや自分の思いや願いを伝え,これからできることを考える。【自己の生き方】</p>	<p>(技)友だちと協力して,問題を解決し,自分たちの思いや願いを発信できる。</p> <p>ジャンプ段階 自己評価シート</p>

(取組効果) 自己評価チェックリスト クラス平均点の推移 (3年生)



人権集会の様子

三側面ともに学習が進むにつれ、少しずつ上昇している。技能的側面の伸びが大きいのは、ジャンプ段階の活動として人権集会が位置づけられ、体験や知識を得たことで肯定感が高まった児童が、更に目的をもって発信し、その成功体験から自信を深めていったことによるものと考えられる。

自己評価チェックリスト項目について

すべてを肯定的にすれば、子どもの場合、先生から自分をよく見られたいという意識が働き自己評価が甘くなるので、敢えて否定的な質問項目もいくつか入れるようにしている。この単元においては、「価値的・態度的のチェックリスト項目」の2つがそれにあたる。「とてもそう思う... 1点」「ややそう思う... 2点」「あまりそう思わない... 3点」「全くそう思わない... 4点」として点数化している。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

佐賀大学文化教育学部教育学 准教授 松下一世先生の協力・支援のもと、テーマや単元に即した人権教育を通して育てたい資質・能力について振り返ることができるシートによる児童の変容を追い、単元の構成の仕方や手立てについての有効性等について評価していった。アンケート等は、日常の教師の観察を相互補完するものだと考え、今後、評価の在り方、学級集団や個人の意識についての分析の在り方等、検証していく必要があると考える。

(保護者や地域住民、参観者からの反応)

- ・ 人権集会とても素敵でした。3年生の発表、それから全校での「あいあいタイム」。すべてが子どもたち自らの言葉で表現されていました。晴田小の伝統・伝承となっている人権集会であったので感動がより深いものとなった気がします。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

小城市立晴田小学校

6年間を通した人権教育(かがやき学習)を設定し,児童の社会性の発達に応じて「自分,自分と他者(低学年)」「自分と他者,自分と地域(中学年)」「自分と地域,自分と地域,社会,自然(高学年)」と同心円的に拡大・深化させ,生活科,総合的な学習の時間,道徳の時間,学級活動等の時間を活用して系統的に計画・実践されている。1学期は全校で「仲間づくり」,2学期から「いのち(1年)」「家族(2年)」「共生(3年)」「地域(4年)」「社会的人間関係(5年)」「平和といのち(6年)」に焦点をあてながら,人権課題に対する理解を深める学習として部落問題学習が配列されている。また,「相手の立場になって聴く」「相手の考えがわかる」など「聞き合い活動」を大切にしている点も,人権侵害を受けた被害者の心身の痛みを理解する際に丁寧な傾聴の姿勢が不可欠であることから,大切な取組といえる。